小石川消防団 広報紙
纏 MATOI
第69号
監修／小石川消防署　編集・発行／小石川消防団広報委員会
令和5年12月25日発行

主な出来事（令和5年9月～12月）

- ◆区内小中学校総合防災教育(9/8,11/15,22)
- ◆文京区内消防団合同点検(10/8)
- ◆第51回東京都消防操法大会(10/14)
- ◆消防団特別研修参加(11/11,12)
- ◆大鳥神社酉の市消防特別警戒(11/11,23)
- ◆秋の火災予防運動に伴う消防演習参加(11/15)
- ◆東京都消防褒賞(曲木分団長,礒崎分団長11/17)
- ◆東京消防庁総合震災消防訓練参加(11/25)
- ◆礫川マラソン消防特別警戒(11/26)
- ◆年末消防特別警戒(12/1～31)

第51回東京都消防操法大会 第3位入賞

10月14日㈯、東京消防庁消防学校にて第51回東京都消防操法大会が開催され、第2分団から髙柳能將副分団長（指揮者）、第3分団から二ノ宮雅登副分団長（4番員）と澤 卓朗団員（1番員）、第4分団から斎藤 薫班長（3番員）と岡村幸斗団員（2番員）の5名が、小石川消防団の代表チームとして出場しました。

小石川消防団は悲願の優勝を目指し、経験豊富な選手に加えて、1番員と2番員には都大会初出場となる20代の若手団員を据え、団を挙げての支援態勢も組み、約1年間におよぶ厳しい訓練を重ねてきました。

その甲斐あって、操作の迅速性や正確性、規律の厳正さなど、本番の日が迫るごとに著しい技術の向上を見せ、さらに、いよいよ迎えた大会当日には、チーム結成以来、最速のタイムを記録するなど、訓練の成果を遺憾なく発揮することができました。

600点満点からの減点方式で競われた審査の結果は、入賞となる上位6チームが、わずか16点差の間にひしめく大混戦となり、小石川消防団はトップと7点差という僅差で第3位に輝きました。

小石川消防団の未来を担う若い力の躍動と成長が光った今大会――ここで培った経験を今後の消防団活動における糧とし、さらに地域の防火・防災に努めてまいります。

近隣住民の皆さまには、長期間にわたる訓練に多大なるご協力を賜りました。この場をお借りして篤く御礼申し上げます。

文京区内消防団合同点検を実施

10月8日㈰、教育の森公園にて、本郷消防団と合同で文京区内消防団合同点検を行いました。

成澤文京区長ほか多数の皆様のご臨席のもと、吉田消防総監を点検者に迎えた部隊検閲では、士気・規律の確認を受けました。

震度6強の地震によって区内で火災や建物の倒壊が発生したという想定で行った災害活動演技では、本郷消防少年団、町会・自治会、災害時支援ボランティアの方々と連携し、初期消火、救助、応急救護、フォークリフトを活用した電柱やがれきの撤去、延焼拡大時に避難路を確保するための一斉放水など、実践的な活動演技を披露し、訓練成果の確認を受けました。

阪神・淡路大震災被災地での特別研修に参加

1923年（大正12年）9月1日に発生した大地震により甚大な被害がもたらされた関東大震災から100年を迎えた本年、同様に都市部を中心に被害を受けた阪神・淡路大震災被災地にて、11月11日㈯,12日㈰の2日間にわたり、特別区消防団の分団長255名に対する地域防災力の向上に向けた特別研修が行われました。

神戸港震災メモリアルパークをはじめ、被災した高速道路の橋脚や震源となった野島断層など、神戸と淡路島の震災遺構や防災体験施設の視察、震災発生当時に活動した消防職員、消防団員の壮絶な体験談を通じて、首都直下地震等の被害に対する意識を高めると共に、消防団員に求められる役割について再認識するなど、実りある研修となりました。

小石川消防団から参加した分団長6名は、今回の研修で得た教訓を踏まえ、消防団の災害対応力を見つめ直し、今後必要となる訓練や地域の被害想定を踏まえた具体的な活動内容についての検討を行いました。